

<回答票> 令和元年度鳥獣被害対策支援活動報告会

資料ページ	御意見等	回答
7	7ページの③の成果に「電気柵の講習会后、電気柵を設置した農地が増加した」とありますが、どのくらい増えたかわかりますか、人数とか設置数とか、わかる範囲で教えてください。	昨年度春と冬に実施した鳥屋の集落環境調査結果を比較しますと、すべてが講習会によって増えたかどうかは定かではありませんが、調査を行った範囲において電気柵を設置した農地の数は、令和元年4、5月の調査時点では5か所、令和2年2月の調査時点では展示ほを含めて11か所でした。
21	「グレーチングは侵入抑止効果が高いが、一端学習されると侵入される場合もあるので注意が必要」とありますが、これは視察先の方がこのように言っていたということでしょうか？ また、視察先ではどの程度の規模のグレーチングを設置して、どの程度の費用がかかっているのでしょうか？ グレーチングの効果を検証した先行研究はありますか？ あれば、その結果がどのようになっているか教えてもらえるとありがたいです。	・視察先の方(群馬県鳥獣被害対策支援センター)からお聞きした内容になります。 ・群馬県内では39カ所(平成24年3月～令和元年8月まで、同センター調べ)の導入が確認されています。土地改良事業や国有林内での補助を活用しており、導入場所は安中富岡渋川等とのことです。費用は場所によって異なりますが、例として、横幅6m×縦幅56cm×4枚に対し230万円程度(設置費用は別途)とのことです。 ・同センターによると侵入抑制効果はあるが、慣れ個体が出てくることもわかっているため、併せ技として指導するようにしているそうです。(中部農業事務所HP参照 https://www.pref.gunma.jp/07/j07000013.html)
24	オリワナシステムの導入費用はどの程度だったのでしょうか？	導入する場合の初期費用及びランニングコストは以下の通りです。 (1)初期費用(親機1+中継器2+子機10の場合) 約100万円 (2)ランニングコスト(親機通信費+子機クラウド使用料+総務省への電波利用料) 年間約6万円 高額な機器でランニングコストも発生する事から、個人の方が導入するというより、行政が導入し、広範囲を一括でカバーするという活用方法に適しています。
33	アライグマ専用捕獲器は、従来の捕獲器と何が違うのでしょうか？ 試験結果を見る限り、専用捕獲器の有用性は錯誤捕獲がないことであり、対象獣の捕獲効果は従来と同じと考えてよいということでしょうか？ 費用的には違いがあるのでしょうか？	・従来の捕獲器は踏み板または吊り金具によってワナが作動するのに対し、専用捕獲器は筒に手を入れたトリガーに接触することによってワナが作動します。 ・専用捕獲器の有用性は、錯誤捕獲が無いこととなります。 ・対象獣(アライグマ)の捕獲効果については、今回の試験では、捕獲数は従来のワナが7頭で専用ワナは5頭であり、従来のわなの方がやや多い結果でした。平成30年度に行った調査では、専用捕獲器の捕獲数が従来ワナの比べて多い結果であり、捕獲効果については専用捕獲器と従来型で、特段の差があるとは明言できず、ワナの設置場所や実施期間等で異なると考えられます。 ・従来の中型獣の捕獲器は1万円半ば程度～2万円半ば程度、アライグマ専用捕獲器は販売価格45000円で、従来のものより価格は高いです。